

⑫ 公開実用新案公報 (U) 昭62-155028

⑬ Int.Cl.⁴

B 60 J 7/08

識別記号

府内整理番号

B-6848-3D

⑭公開 昭和62年(1987)10月1日

審査請求 未請求 (全2頁)

⑮考案の名称 トラック荷台の屋根開閉装置

⑯実願 昭61-44135

⑰出願 昭61(1986)3月25日

⑱考案者 蚊爪 喜与治 金沢市新神田1の7の17

⑲出願人 蚊爪 喜与治 金沢市新神田1の7の17

⑳代理人 弁理士 宮田 庄太郎 外1名

㉑実用新案登録請求の範囲

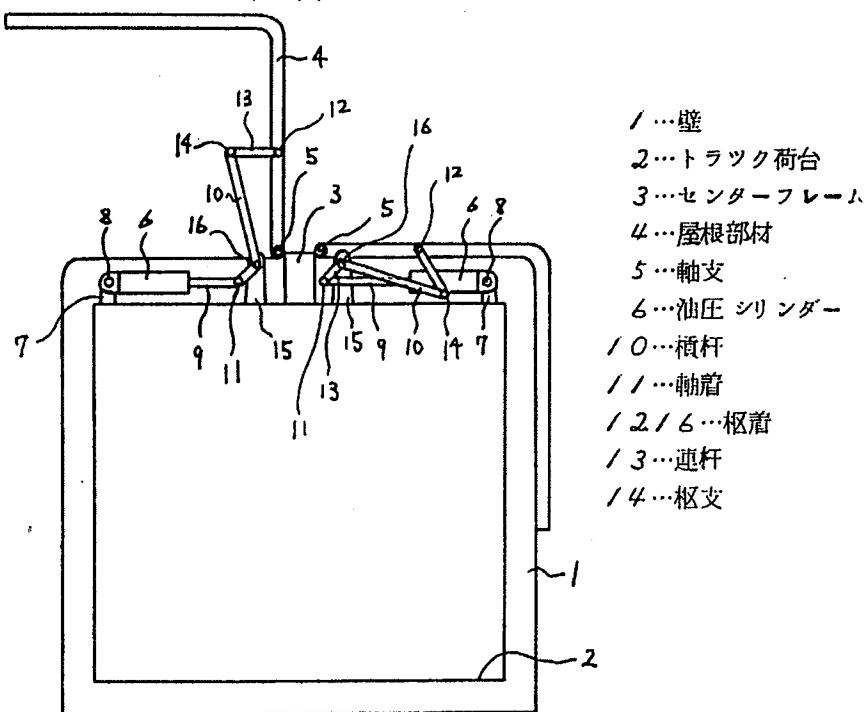
トラック荷台の前後に立設した壁上間にセンターフレームが架設され、該センターフレームに左右の屋根部材の基部が回動自在に軸着されたトラック荷台に於いて、壁の上面に横杆が枢着されると共に、該横杆の一端は壁の上面に設けた伸縮具に連結され、他端は一端を屋根部材に枢着した連杆に枢支されていることを特徴とする、 トラック荷台の屋根開閉装置。

㉒図面の簡単な説明

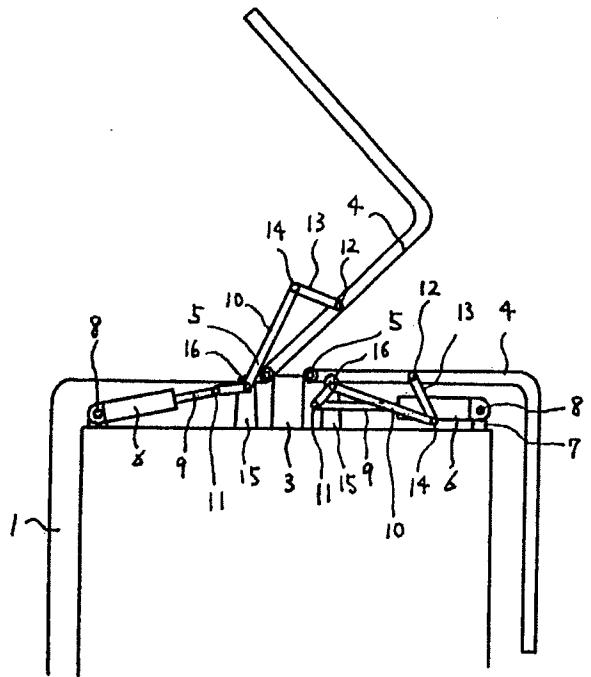
第1図及び第2図は本考案装置の実施例を示した正面図、第3図は同上の斜視図、第4図は従来例を示した正面図である。

符号、1は壁、2は トラック荷台、3はセンターフレーム、4は屋根部材、5は軸支、6は油圧シリンダー、10は横杆、11は軸着、12、16は枢着、13は連杆、14は枢支。

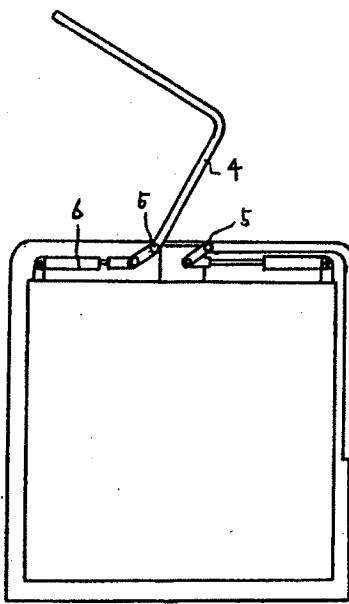
第1図



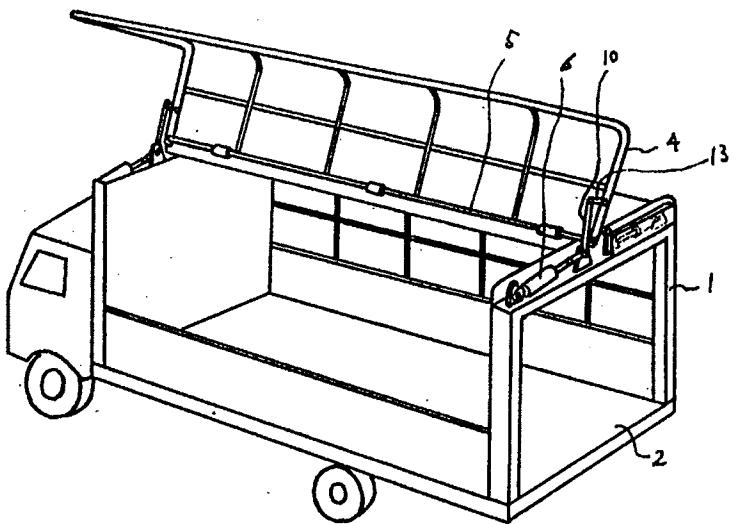
第2図



第4図



第3図



公開実用 昭和62- 155028

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭62- 155028

⑬ Int.Cl.

B 60 J 7/08

識別記号

府内整理番号

B-6848-3D

⑭ 公開 昭和62年(1987)10月1日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 ト ラ ツ ク 荷 台 の 屋 根 開 閉 装 置

⑯ 実 願 昭61- 44135

⑰ 出 願 昭61(1986)3月25日

⑱ 考案者 蚊爪 喜与治 金沢市新神田1の7の17

⑲ 出願人 蚊爪 喜与治 金沢市新神田1の7の17

⑳ 代理人 弁理士 宮田 庄太郎 外1名

明　　希　　書

1. 考案の名称

トラック荷台の屋根開閉装置

2. 実用新案登録請求の範囲

トラック荷台の前後に立設した壁上間にセンター
フレームが架設され、該センターフレームに左右
の屋根部材の基部が回動自在に軸着されたトラッ
ク荷台に於いて、壁の上面に横杆が枢着されると
共に、該横杆の一端は壁の上面に設けた伸縮具に
連結され、他端は一端を屋根部材に枢着した連杆
に枢支されていることを特徴とする、トラック荷
台の屋根開閉装置。

3. 考案の詳細な説明

《産業上の利用分野》

本考案は、トラック荷台の側面扉、及び屋根の
一部を覆う屋根の開閉装置に関するものである。

《従来の技術》

従来の屋根開閉装置は、第4図に示す如く屋根
の回動軸にカムを軸着し、該カムをシリンダーロッ
ドに連結していた。

又、二段式のシリンダーを使用し、シリンダーロッドの先端を屋根部材に連結していた。

《考案が解決しようとする問題点》

荷物の積み下ろしに際しては、トラック荷台の屋根はできるだけ大きく開放されると、作業がし易く便利であるから、屋根部材は開放時、直立状態よりも更に後方へ傾斜させた方がよいのである。

そのため、従来は二段式のシリンダーを使用し、長いストロークで屋根部材を 90° 以上後方へ倒していたが、二段式のシリンダーを使用すれば重量があり、その上費用も嵩むのである。

又、第4図の如く屋根の回動軸にカムを軸着したもののは、回動軸を回動するため非常に大きな力を要し、特に降雪地帯では屋根上に積もった雪の重さで回動軸が撓り、回動に支障を来すのである。

そこで本考案は簡単な機構で屋根部材を 90° 以上傾倒することを目的としたものである。

《問題点を解決するための手段》

上記問題点を解決するため本考案は、トラック荷台の前後に立設した壁上間にセンターフレームが

架設され、該センターフレームに左右の屋根部材の基部が回動自在に軸着されたトラック荷台に於いて、壁の上面に横杆が枢着されると共に、該横杆の一端は壁の上面に設けた伸縮具に連結され、他端は一端を屋根部材に枢着した連杆に枢支されていることを特徴とするものである。

《作用》

次に、本考案の作用を図面に基づき説明すれば、第1図に於いて、片側の屋根部材(4)の閉じた状態より反対側の開いた状態にする場合、シリンダー(6)のシリンダーロッド(9)を縮めれば、横杆(10)の一端がシリンダー(6)側に引かれるため、横杆(10)は座板(15)の枢着(16)部を支点として反転し、横杆(10)の他端は連杆(13)を押し上げ、屋根部材(4)に連結している連杆(13)が屋根部材(4)を上方へ押し上げ直立状態にする。

そして、更にシリンダーロッド(9)を縮めれば、第2図に示す如く横杆(10)が更に回動し、連杆(13)を介し、屋根部材(4)を後方へ傾倒させ、大きく屋根を開放するのである。

又、屋根を閉じる場合は、シリンダーロッド(9)を伸長すれば、前と逆作用により行なわれるものである。

《実施例》

以下本考案の実施例を図面に基づき説明すれば、(1)はトラック荷台(2)の前後に立設した壁であり、該前後の壁(1)上間にセンターフレーム(3)が架設されている。

センターフレーム(3)の両側にはトラック荷台の側面部、及び屋根を覆う屋根部材(4)の基端が回動可能に軸支(5)されている。

(6)は壁(1)の上面に設けた座板(7)に起伏可能に枢支(8)した油圧シリンダー、(9)はシリンダーロッドであり、該シリンダーロッド(9)の先端に横杆(10)の一端が回動可能に軸着(11)されている。

横杆(10)の他端は一端を屋根部材(4)に枢着(12)した連杆(13)の端部に枢支(14)されており、又横杆(10)は壁(1)上に立設した座板(15)に回動可能に枢着(16)されている。

そして横杆(10)は枢着(16)部を支点として反転するものである。

《考案の効果》

本考案によれば、横杆(10)を設けたため、ピストンロッド(9)が短くても屋根部材(4)を後方へ傾倒することができ、しかも従来の様に回転軸を直接回転させるものに比べ、力が軽くて済み、又横杆(10)及び連杆(13)の存在により、屋根部材(4)の開放時、例え突風を受けても支えになり風圧に強い屋根となるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本考案装置の実施例を示した正面図、第3図は同上の斜視図、第4図は従来例を示した正面図である。

符 号

(1)は壁

(2)はトラック荷台

(3)はセンターフレーム

(4)は屋根部材

(5)は軸支

(6)は油圧シリンダー

(10)は横杆

(11)は軸着

(12)(16)は枢着

(13)は連杆

(14)は枢支



実用新案登録出願人

蚊爪

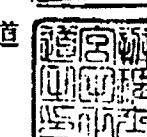
喜与治



代 理 人

宮田

庄太郎



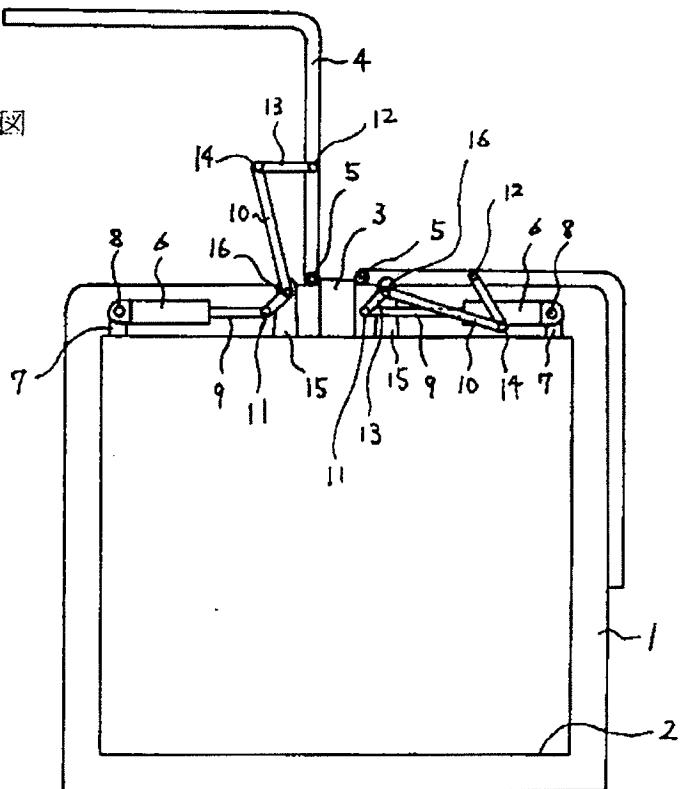
同

宮田

正道

その 1

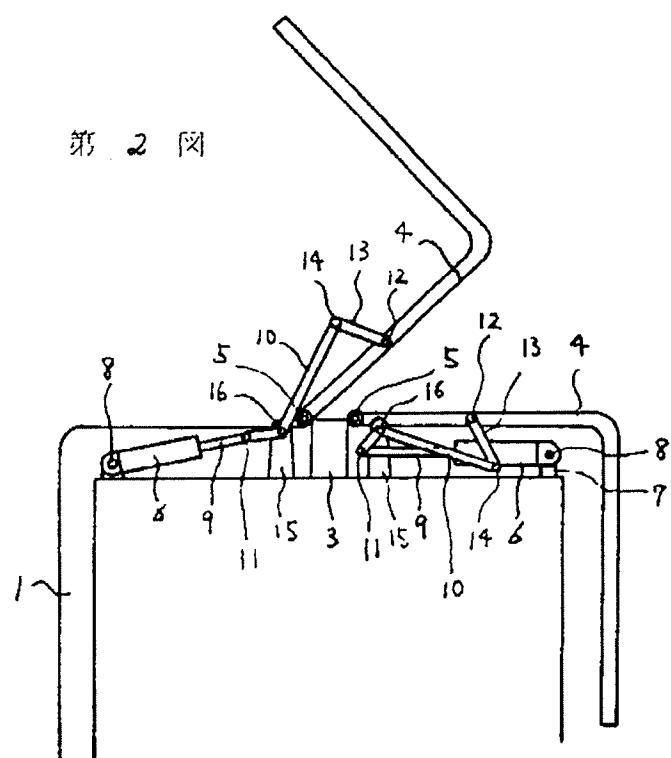
第 1 図



- 1 … 壁
2 … トラック荷台
3 … センターフレーム
4 … 屋根部材
5 … 軸支
6 … 油圧 シリンダー
10 … 棚杆
11 … 軸着
12 / 16 … 杖着
13 … 連杆
14 … 枢支

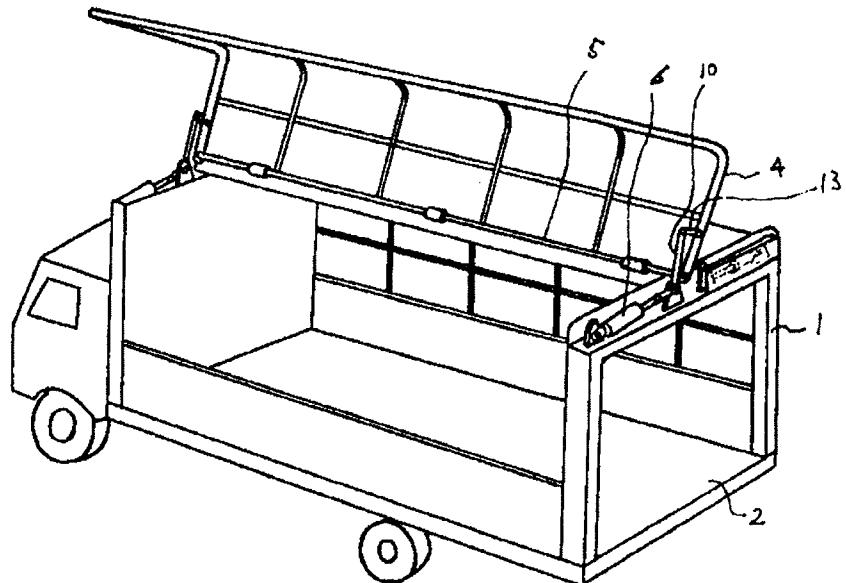
代 理 人
美用新室發録出樹人
宮 田 伸
外 庄 太 郎
名 郎

第 2 図

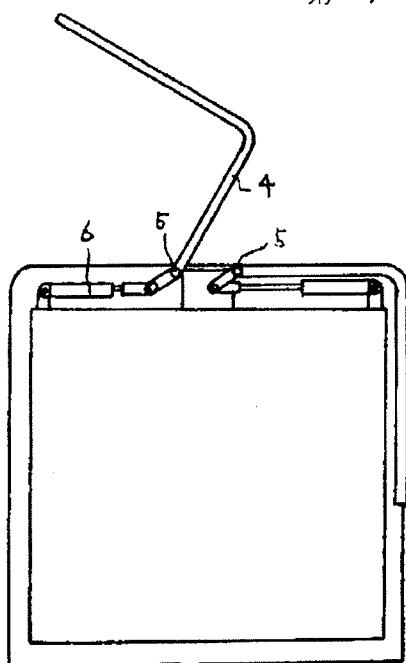


その 2

第 3 図



第 4 図



代
理
人
宮
城
田
爪
喜
与
治
外
庄
一
太
名
郎